

伊豆山復興まちづくりワークショップ

発行：令和4年8月

◆伊豆山復興まちづくりワークショップを開催しました！

令和4年7月31日（日）13時30分から16時30分まで、熱海市役所第1庁舎4階第1会議室にて、新型コロナウイルス感染予防対策を実施したうえで、第3回伊豆山復興まちづくりワークショップを開催しました。

当日は、26名が参加され、ワークショップの目的と進め方をご理解いただいたうえで、第2回ワークショップで選択した8つのテーマについて、グループごとに更に意見交換を深めながら、参加者提案の言葉をまとめていただきました。

日時：令和4年7月31日（日）13:30～16:30
場所：熱海市役所第1庁舎4階 第1会議室
参加者：26名



◆主な意見交換内容

1. 第3回 「伊豆山の将来像を具体化しよう」

第3回のワークショップでは、第2回ワークショップ「これまでの伊豆山を振り返ろう」で絞られた8つのテーマについて意見交換を深め、各グループの提案としてまとめました。グループでの意見交換の前に、第2回ワークショップで各自が選択したメインテーマ以外に関心のあるテーマへのアイデア・意見交換を行いました。その後、メインテーマのグループに戻り、これまでの意見を踏まえて、①目指す将来像、②困っていること・心配なこと、③取り組み案の視点から、各グループの提案としてまとめました。

第2回ワークショップから継続して「話し合われたテーマ」

- 生活道路・公園・地域に必要な機能
- 避難所に必要な機能とは何か
- 地区内の街並みで大事なこと
- 若年層・子育て層に定住してもらうには
- 暮らしやすい伊豆山に必要なこと
- 町内会間の情報共有はどうしたらうまくいくか
- 防災体制・次の災害に向けて
- 補助・支援が必要なところ



◆参加者アンケートの結果・今後のワークショップの進め方

第2回ワークショップで①メディアによる撮影方法等について、②ワークショップ参加者の拡大（伊豆山地区7町内会）について、アンケートを行いました。アンケートの結果を踏まえ、第3回以降のワークショップの進め方について、以下の通りご報告させていただきました。

①メディアの撮影方法等について：これまで同様に冒頭部分のみ撮影可能とします。なお、各回ワークショップ終了後にとりまとめた資料の撮影時間を別途設けています。

②ワークショップ参加者の拡大と情報共有について：岸谷・浜・仲道地区の3町内会から町内会の代表者（役員）に第3回からご参加いただくことになりました。また、伊豆山地区7町内会にかかわら版を回覧し、ワークショップで交わされたご意見などの情報共有を図っています。

2. ワークショップで取りまとめた各グループの提案

生活道路・公園・地域に必要な機能

◆目指す将来像

- 暮らしの道路を安全面と日常の利便性を保つ改修や工夫をすることで、安心感を持って生活を送れる

視点1：安全面 災害時の避難路（火事・水害等）、脇道・抜け道の整備確認

視点2：日常の暮らし・利便さ 交通安全、坂道、休めるところの手摺りなど、日常の暮らし内のこと、生活動線を便利に確保してほしい

◆困っていること・心配なこと

- 復興計画、区画以外も見直しや道路幅等の変更・改修をしてもらえるのか
- 道路・側溝等整備された後のメンテナンスや年間の掃除など、維持管理は誰が行うのか？
- 計画案の説明、提案の際に住民側の意見を加えてほしい、判断材料が少なく、決められない

◆取り組み案（安全性を高める）

- 地震・火事・津波水害等に備えた、避難路・避難所の在り方をしっかり確認＋抜け道・細道・生活道路、避難訓練内容の見直し
- 神社線以外も見直してほしい（幅・消火栓等）

◆取り組み案（暮らしやすさ・利便性を高める）

- ちょっと公園・ベンチを坂の各所に設けることで日常の利便さ・交流に繋げる
- 散歩が気軽になる場所・道路・休憩所をつくる
- 他地域と交流がしやすい（バスの乗り換え等）、地域内の交流・情報が伝わりやすくなる
- 空き地・空き家などの有効活用（駐車場・日常の交流スペースなど）

避難所に必要な機能

◆目指す将来像

- 生命を守る避難所
- 安心して避難できる避難所

◆困っていること・心配なこと

- 避難所に行く道が危ないという情報がある
- 避難所でのトイレ、階段、暑さなど
- 情報が来なかった

◆取り組み案

- 避難所を明確にし、1次避難をする避難所には、キーパーソン（例えば、民生委員）がいて、どこの避難所に行けばいいのか家に戻れるかをいう。取り残されている人がいないか確認する。次に避難所に行く
- ファミリーで避難できる場所にする
- 町内会、顔見知りの人たちが近くにいる状態にする
- エアコン、洋式トイレ、階段をスロープにする、更衣室を作る
- 女性に配慮した避難所に
 - 下着・タオル等わからないようにしてセットして支給
 - 生理用品などにも配慮
 - 授乳室を作る

地区内の街並みで大事なこと

◆目指す将来像

- 高齢者も若い人も住みやすい街に
- 前よりちょっと住みやすく・使いやすくする

◆困っていること・心配なこと

- 計画づくりに住民（地権者を含む）の意向を反映（優先して）できるのか？
- JR・新幹線の橋桁の狭さは解消できるのか（拡張道路の海側の出口）

◆取り組み案

- 昔からの原風景を市で再建・維持してほしい
 - ◎なぎの木の保存
 - ◎逢初橋（たいこ石橋）の再建
- 新しい人も安心して住みやすくするために商業地化を（市、民間）
 - ◎診療所設置
 - ◎よろず屋の開設
- 子どもが遊べる場≡公園などの設置（市整備）
 - ◎町のイベント開催（市民主催）例えば、人工池で釣りイベント
- 防災・防犯にもつながる市民参加の夜間ライトアップ（市民）
- 川を暗渠としたいが、水面が見えないと、土石流の前触れ等見つけられない。拡張はやむなし。利便性高くなる。

若年層・子育て層に定住してもらうには

◆目指す将来像

- コミュニケーションが取れる・情報交換のできる街
- 子どもの頃から地元愛を育める街

◆困っていること・心配なこと

- 通学路の安全性
- 遊ぶ場所（小さい子）がない、缶蹴りできない

◆取り組み案

- 公園的なものをつくる（子ども、サークルの拠点となる場、日常の中で遊べる、災害時には避難できる・安全確保できる場、人の目が行き届く明るい場所）
- 銭湯＋足湯（既存を活用：小さなお風呂屋さん、地元の人も観光客も両者が利用可：コミュニティ、大人も子供も楽しめる）
- 歴史的：神社、逢初橋、地蔵、散策できる、学べる（観光院、地元の人）、災害の語り継ぎ
- 移住者向けのアンバサダー制度（行政、ボランティア）三島市のケース参照
- 生涯学習的な学びの場（場所があってもそれを活用する人の意識が大事、防災の知識（大人も子供も）消防団と一緒に学べる「岸谷クラブ的」）

暮らしやすい伊豆山に必要なこと

◆目指す将来像

- ・ それぞれの中にある昔の伊豆山らしさを失わない

◆困っていること、心配なこと

→取り組み案

- ・ 出来上がった道路がこれまでの生活に根ざしていない
- ・ 新幹線の下が車では狭い
→元々ある岸谷本線の拡幅など、大事にして考えていくべき
→地域に根ざした道路沿い元々の課題の住民（特に岸谷本線）を反映
- ・ 店舗が減っている
- ・ 店舗に行くための足となる車を持っていない。運転できなくなる。
→移動販売車に回ってもらう
→店舗に行けるバスを通してもらう
- ・ 若い人との接点がない
→隣近所にいなくても、頼れる関係性や近くに住んでいる状況をつくる（集合住宅をつくるなど）（※続けて考えるもの）

防災体制・次の災害に向けて

◆目指す将来像

- ・ 逃げ道が確保され、高齢者のことを考えた防災体制になっている。
- ・ 危険情報が市一町内会一住民の間で共有できている。

◆困っていること・心配なこと

- ・ ワークショップで話し合った不安、心配事に対して市のアクションがない（伊豆山小の避難所指定）
- ・ 逃げ道のない地域が複数ある
- ・ 防災放送が聞こえない、聞きとりづらい
- ・ 自主防災組織がよく分からない
- ・ 防災訓練の計画・考えを知りたい
- ・ 湯河原に熱海市の防災ガイドラインが届かなかった
- ・ 停電時に防災無線が使えないこと

◆取り組み案

- ・ 他自治体を参考に、防災マニュアルを見直す
- ・ 危機感を煽る為にサイレンやチャイム音を取り入れる（生の声で緊急さが伝わる）
- ・ 盛り土のMAPがある
- ・ 3 町内会の連絡網が、防災無線が使えない時に機能する
- ・ 危険箇所・地域に対して市から積極的に情報公開がある
- ・ 住民の要望・声に市が期限を設けて回答される
- ・ ワークショップでの話し合いが、計画にどう反映されるか、計画で実現されるか、検証する機会を作る
- ・ 合同で防災訓練が行われる
- ・ 新しい道を確保する（避難路）

町内会間の情報共有はどうしたらうまくいくか

◆目指す将来像

- ・ 町内会同士が連携し住民に安全・安心を届けている

◆困っていること・心配なこと

- ・ 情報共有ができていなかった事で被害が拡大
 - ・ 高齢者が増え、手が廻らなくなってきた＝高齢者にやさしくできない
 - ・ 民生委員の成り手がない（町内会に推薦求める）
 - ・ 役員 10 年は長い（3～5 年）
 - ・ 現状を見ると無力感を覚える。（具体化する力、被災者は大変だと思う）
 - ・ 話すことがまとまらない、どうすれば伝わるのか。難しい。（言いたい事が言葉にならない）
- ### ◆取り組み案
- ・ 行政と町内会の役割分担の見直し（若い人に役員をお願いできるだけの事務量）
 - ・ 連合町内会議の活性化（7 町内会）（新和会が岸谷町内会を支援 4 回/年。岸谷モデルの普及・地域に合った改良）

若い人が入るメリット

- ・ 酒飲み、近所で子育て
- ・ ふるさと＝近所の親父に怒られた記憶、友達と遊んだ記憶
- ・ ワークショップを続けた方が良い

補助・支援が必要なところ

◆目指す将来像

- ・ 警戒区域の被災者が安心して元の生活に戻れている

◆困っていること・心配なこと

- ・ 資金面での不安
- ・ 住めるまでにいくらかかるか分からない
- ・ 土地・再建・家の修繕費がかかる
- ・ 電化製品が使えるのか→義援金では足りない
- ・ 県の補助（仮住まい）が無くなること
- ・ 被災の度合いに応じた支援策が決まっていない
- ・ 別宅を購入したため、戻った時にダブル課税になる

◆取り組み案

- ・ 県・市独自の具体的で各々の被災状況に応じた支援（税金免除、ローン無利息長期支援、仮住まい補助、固定資産税の免除）
- ・ 専門家による再建相談
- ・ 地盤や法律、建築家の見積り
- ・ 商工会議所の長期無利子融資



3. ふりかえり：ワークショップの後、みなさんからたくさんのご意見を頂きました！！

グループ内でのふりかえり

- ・ 3回目の参加となり、だいぶ場慣れしてきた。テーマに対して具体的にイメージできるようになり、活発な意見も多かった。
- ・ 他のグループでも同じような意見や問題などが多くあった。考え方は一緒だと思った。関心や共感することもあった。
- ・ 日頃のコミュニケーションが大事だと改めて思った。
- ・ 8グループあるので、すべてのグループに参加できるとよいと思った。
- ・ ワークショップに来ていない人や来られない人の意見も聞けるとよいと思う。
- ・ いろいろな人の意見をたくさん聞いて皆さんの伊豆山への想いが合わさって、それぞれにとってのいい伊豆山になってくれたらいいなと思った。
- ・ 正解はないが、何百年も先の人たちは、今の私たちの判断をどう考えるのか。
- ・ ワークショップで話し合った内容が、復興まちづくり計画にどの程度反映されるのか不安が先に立つので、この場での声を積極的に拾ってほしい。
- ・ 話し合いの結果がどの程度反映されたのか・実行されているのかチェックしていこうと思った。
- ・ 土地を提供して帰れなくなる、戻れなくなる人とのことも考えて欲しい。住んでいたところもしくは近くに住めるようにしてほしい。
- ・ 避難路にできる抜け道を地域の人ができるようにしたい。
- ・ 避難所を伊豆山小学校から、仲道公民館・岸谷会館に変えられないか。
- ・ 各人の立場や状況により支援される内容が異なる。行政の補助・支援が少ないなかで、それぞれが何が必要となっているか聞いてほしい。

ふりかえりシートで頂いたご意見・ご感想

- ・ 進行が素晴らしいので、とても話しやすい。
- ・ ワークショップを通して、「現実複雑」でも起きた「事実」を確認することは、自分自身の幅を広げることだと考えている。
- ・ 県や市の復興のイメージがあれば教えてほしい。
- ・ 私たちの出した意見が復興に反映できるのか疑問。個人がわからない形でそれぞれの意見をすべて明らかにしてもらいたい。
- ・ ワークショップでの話し合いが計画にどのように落とし込まれるのか、実現されるのか、検証する機会を作ることが急務ではないか。(参加者が入る形で)
- ・ ワークショップで出された意見・方策のどの部分が復旧・復興計画に反映されたか、または参考意見として取り上げられているかを事例として冒頭に説明があると気持ちが変わってくる。
- ・ 復興計画検討委員会との調整や、議論内容の発表・説明をしてほしい。
- ・ かわら版に載せる際になるべく原文に近い形で載せるべき。編集する人の考えで印象操作されてはいけないと思う。そういう意図ではなくても、結果的にそうなっているように思う。
- ・ 伊豆山全体での話し合いの場所も必要だと思う。

第4回ワークショップの予定 ぜひご参加ください！

日時：令和4年8月28日（日）13:30~16:30

場所：熱海市役所第1庁舎4階 第1会議室

テーマ：「これからの伊豆山地区をカタチにしよう」

対象：警戒区域内にお住まいだった方（避難されている方）または 伊豆山浜・仲道・岸谷地区にお住まいの方

※新型コロナウイルス感染予防対策のため、参加者数に上限を設けていましたが、参加者数上限に達しましたため、申し込みを締め切らせて頂きます。多数の参加申し込みありがとうございました。

※お申し込み済の方で、第4回ワークショップを欠席される場合は、下記までご連絡ください。

◆お問合せ◆ 熱海市役所 経営企画部 企画財政課 復興推進室

〒413-8550 静岡県熱海市中央町1-1

TEL 0557-86-6213/FAX 0557-86-6152

メールアドレス (fksuishin@city.atami.shizuoka.jp) まで